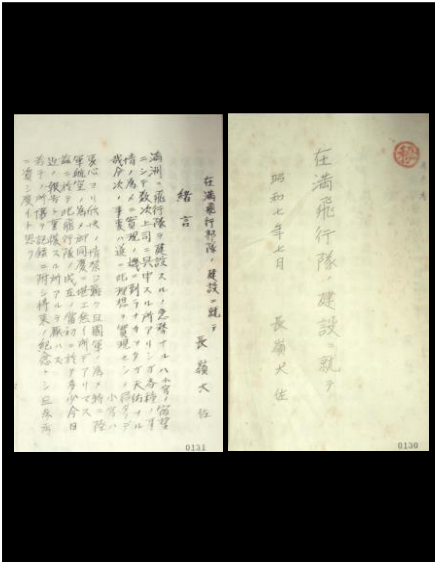


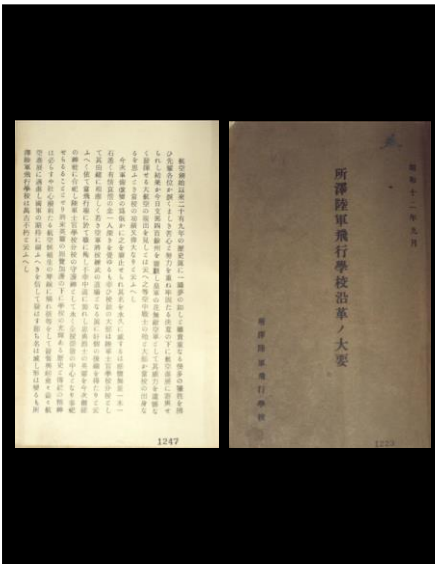
平成29年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

ながみね かめすけ  
《 長嶺 亀助 1884～1975年 》  
— 沖縄県出身の陸軍少将 —



在満飛行隊ノ建設ニ就テ (登録番号：陸空-満州方面-102)

長嶺亀助少将は、沖縄県出身の唯一の将官で、陸軍士官学校（18期）及び陸軍大学校（28期）を卒業後、昭和5年12月飛行第6連隊長に就任、満州事変勃発後の昭和6年11月には関東軍飛行隊長を兼務します。この史料は、昭和7年6月に兼務を解かれた長嶺連隊長が、翌7月に記述した「在満飛行隊ノ建設ニ就テ」です。当時、軍の組織・機構・経費・人事等全てが歩兵優先のなか、「満州ニ飛行隊ヲ建設スルノ急務ナルハ小官ノ宿望ニシテ数次上司ニ具申スル所アリシガ各種ノ事情ノ為メニ実現ノ機ニ至ラナカッタ（中略）今次ノ事変ハ遂ニ此理想ヲ実現セシメ得タ」ものの、関東軍飛行隊は飛行第6連隊の臨時編成部隊でした。その後同飛行隊は、関東軍飛行集団、第2飛行集団、第2飛行師団と改称し、満州の防空を担当しました（他に「航空戦備の追憶」陸空-中央航空基盤-30）。



所沢陸軍飛行学校沿革ノ大要 (登録番号：陸空-中央学校-39)

飛行第6連隊長のあと、昭和8年3月に所沢陸軍飛行学校教育部長、同年8月に幹事に就任した長嶺は、昭和10年8月に陸軍航空本廠長に転出するまでの約2年5か月、同校で勤務、陸軍航空技術学校の新設に尽力します。所沢陸軍飛行学校は、大正8年4月に臨時軍用気球研究会内に設置された陸軍航空学校を、大正13年5月に改称、昭和12年9月の廃止まで、飛行機操縦の他、航空に関する教育や研究を行いました。この史料は「所沢陸軍飛行学校沿革ノ大要」（昭和12年9月）で、陸軍航空学校及び所沢陸軍飛行学校の19年間にわたる業績を記し、「校趾の大部は陸軍士官学校分校として其由緒に相応しく若き空軍将校練武の道場となる真に好個の後継を得たり（中略）名は滅し形は変るも所沢陸軍飛行学校は万古不朽」と結んでいます。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
防衛研究所企画部企画調整課  
専用線：8-6-29171、29175（史料紹介コーナーのみ29651）  
外線：03-3260-3011  
FAX：03-3260-3034 ※ 防衛研究所ウェブサイト：www.nids.mod.go.jp